

16 夏井川河口 (いわき市)



初夏、アマサギの群れが優雅な姿を見せてくれる。防風林のクロマツには春秋に渡りの途中のオオルリやキビタキが姿を見せ、冬には山から漂行してきたクイタダキやアカハラ、ヤマガラなど見ることができる。

この一帯には、オオゲンカンドリ、ナベコウなどの珍鳥が姿を見せたことがあり、今後も楽しい地域である。

海岸を歩いてみる、松林の中を歩く、ヨシ原と干潟を観察するなど、自分の目的にあわせてコースを設定するとよい。喫茶店などもあるのでコーヒーを飲みながら、窓の

外に現われる鳥たちを観察できるのもうれしい。

環境

いわき市平の市街地の東側を流れ太平洋に注ぐ夏井川の河口は、四季を通じて格好の探鳥地になっている。白砂青松の河口一帯は、今では松食い虫の被害を受けて松も少なくなったとはいえ、まだまだ豊かな自然環境が残っている。

河川敷内のヨシの群落、広いとはいえないが干潮時に現れる干潟、砂浜とクロマツの防風林、田園地帯と防風林の間に横たわる潟湖、そして海岸線が織りなす複雑な環境が、さまざまな鳥たちを、四季折々にひきつけている。

季節

海岸の波打ち際によって散策すると、春秋にはキョウジョシギ、オバシギ、キリアイ、キアシシギなどのシギ類が観察できる。また、年間を通してシロチドリなどの群れが砂浜のあちこちに見え隠れしている。河口部の水溜まりには、時にセイタカシギのような珍鳥も現われることもある。また、松の梢にはアオサギが翼を休めていることも多い。川の両岸のヨシ原には、夏、オオヨシキリが騒がしく鳴き、セッカが間断なくさえずる。防風林の後の水田地帯には、

交通

JR常磐線いわき駅(旧平駅)前より常磐交通バスで夏井経由西原行き乗車。「新田入口」で下車、徒歩10分で夏井川河口に着く。

